

**為末大氏が求める“おもてなし”2020年に向けた新提言  
「本物のおもてなしには“心のバリアフリー”を！  
まちづくりで、世界をひっぱる日本に！」  
コアメンバー5名で、「第1回 TOYOSU 会議」開催！**



※2020年の選手村予定地を背景に、左から(清水義次氏、高桑早生氏、為末大氏、栗栖良依氏、遠藤謙氏、曾谷朝絵氏)

東京ガス用地開発株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:丸山隆司)は、2014年7月22日(火)、「がすてなーに ガスの科学館」(東京都江東区)にて、「第1回 TOYOSU 会議」を実施いたしました。

「TOYOSU 会議」は、新豊洲エリアの開発コンセプト「TOYOSU22」(※1)の3つのスマートの1つである「スマートコミュニティ」の2020年に向けた活動テーマとして掲げた「SPORT×ART」(※2)のテーマのもと、各界の若手有識者が新豊洲エリアの街づくりに対して自由に意見交換をする場として発足いたしました。

「第1回 TOYOSU 会議」となった今回は、チェアマンに元陸上選手の為末大氏を迎え、TOYOSU22のコミュニティデザインアドバイザーの清水義次氏、パラリンピック陸上選手の高桑早生選手、義足エンジニアの遠藤謙氏、クリエイティブディレクターの栗栖良依氏が参加しました。会議では、成熟都市であるロンドンで開催されたオリンピックやパラリンピックに倣って、2020年の東京そして新豊洲エリアのスポーツの関係と新豊洲エリアのライフスタイルについて意見が交わされました。

為末さんは会議を通じて「心のバリアフリーこそが、本物の“お・も・て・な・し”であると考えます。パラリンピックが“おもてなし”の心を育む大きなきっかけになるので、都市開発やコミュニティーデザイン、障がい者スポーツ、アートといった知識をもつ皆様と、枠を超えて議論出来たのがとてもよかったです。」とコメントしました。また遠藤さんは「義足エンジニアとして、競技だけではなく暮らしの中でも取り入れていただけるようなユニバーサルデザインを2020年に向けて描いていきたいです。」高桑さんは「まだ日本には“障がい者はスポーツをしない”という先入観が残っています。まずは競技場に足を運んでいただき、障がい者だからもつ“マンパワー”を見て感じてください。きっと、印象が変わると思います。私も皆さんに勇気を与えるヒーローになれるように、頑張ります！」と熱く抱負を語りました。

為末さんは今後について「「TOYOSU 会議」を通じて、2020年よりも先の未来を見据えた大きなビジョンを語り合い、形にしていきたいです。」とプロジェクトへの決意を述べました。

「TOYOSU 会議」は、今後も定期的開催し「SPORTS×ART」をテーマとした活動の具体化に向けた議論を継続的に行う予定です。これと同時に新豊洲エリアの更なる魅力向上と認知を図るため、ブランディングディレクションを東京・青山の複合文化施設「スパイラル」(運営:株式会社ワコールアートセンター、代表取締役社長:小林裕幸)に委嘱し、活動テーマ「SPORTS×ART」に沿ったイベントの誘致やエリア全体の情報発信活動を開始いたします。

## (第1回 TOYOSU 会議 開催概要)

- 日時 : 2014年7月22日(火) 10:20~12:00
- 会場 : 「がすてなーに ガスの科学館」(東京都江東区豊洲 6-1-1)
- 主催 : 東京ガス用地開発株式会社
- 企画協力 : スパイラル/株式会社ワコールアートセンター
- 登壇者 : 為末大氏(元陸上選手)、清水義次氏(コミュニティデザインアドバイザー)、  
遠藤謙氏(ソニーコンピュータサイエンス研究所 研究員/ 株式会社 Xiborg 代表取締役)、  
高桑早生氏(パラリンピック陸上選手)、栗栖良依氏(クリエイティブディレクター)
- URL : <http://sportxart.jp>

### ※1 「TOYOSU22」とは

22世紀に引き継ぐ水と緑に包まれたスマートシティプロジェクト「TOYOSU22」は、“スマートエネルギー” “スマートグリーン” “スマートコミュニティ”の3つのテーマをもとに、始動しました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの競技会場や選手村の予定地となり、スポーツシーンの大きな盛り上がりが見込まれる東京臨海エリア。その中心に位置する豊洲埠頭地区に、これから新しい街が生まれようとしています。

### ※2 「SPORT×ART」(スポーツバイアート)とは

「TOYOSU22」で展開されるコミュニティづくりのための活動テーマです。健全な都市生活において身体と精神の充実が欠かせない要素であり、新豊洲エリアでは「心と身体の両面から考えるコミュニティづくり」をめざします。新豊洲エリアの都市環境を活かし市民にひらかれたスポーツコミュニティを指向するとともに、デザインやテクノロジー、環境意識や生活文化まで包含し、アートを広義に捉えたライフスタイルを発信していきます。また、「SPORTS×ART」活動の一環として、2014年9月(※変更の可能性有り)には新豊洲エリアにニューヨークで活動中のアーティスト・曾谷朝絵氏デザインによる「アートフェンス」の設置を予定しています。



### ■新豊洲レンタルエリアについて

地図の豊洲6丁目の赤地表示エリアを「新豊洲レンタルエリア」として、7月よりイベント等に貸出しを開始しました。貸出窓口は、新豊洲エリアのブランディングディレクションを委嘱しているスパイラル/株式会社ワコールアートセンターに合わせて委嘱しています。詳細については下記までお問い合わせ下さい。

### ■新豊洲レンタルエリアの利用方法について(問い合わせ先)

スパイラル/株式会社ワコールアートセンター

〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23

担当: 五十嵐、広澤、高橋

TEL: 03-3499-3922 FAX: 03-3498-9748

E-mail: [shintoyosu@spiral.co.jp](mailto:shintoyosu@spiral.co.jp)

<http://www.spiral.co.jp>



## ■参加者プロフィール

### 為末大 (ためすえだい) / 元陸上選手

1993年、全日本中学校選手権 100m・200mで二冠、ジュニアオリンピックでは当時の日本記録を更新。以降、インターハイ、国体、世界ジュニア選手権などで短距離の新記録をマーク。法政大学へ進み、日本学生選手権 400mハードル 3連覇。シドニー、アテネ、北京五輪に出場世界選手権では 2001年エドモントン大会にて 3位に入り、トラック競技で日本人初のメダル(自己ベスト 47秒 89 を記録)、2005ヘルシンキ大会でも銅メダルを獲得。その他に、2007年東京の丸の内「東京ストリート陸上」をプロデュース、2011年5月に地元広島にて「ひろしまストリート陸上」に参加。続いて、7月に浅草で開催された「東京スポーツタウン」にも参加するなど、陸上競技の普及に積極的に取り組んでいる。その他、2011年3月の東日本大震災が発生した直後、自身の公式サイトを通じて「TEAM JAPAN」を立ち上げ、競技の枠を超えた多くのアスリートに参加を呼びかけるなど、幅広く活動している。さらに、8月には韓国テグで開催された「世界陸上」でTBSテレビ初の現役アスリートゲストとして現場から大会の魅力や注目選手をレポートした。



### 清水 義次 (しみずよしつぐ) / 都市・建築プロデューサー

#### ／株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役／3331 Arts Chiyoda 代表

東京大学工学部都市工学科卒業後、コンサルタント会社を経て1992年、(株)アフタヌーンソサエティ設立。アフタヌーンソサエティは、都市生活者の潜在意識の変化を掴み、新しい仕組みを創造し、それを実践するクリエイティブなシンクタンク。建築・都市・地域再生プロデュース等を行っている。近年は、セントラル・イースト東京エリアや北九州市小倉中心市街地などで、遊休不動産を活用し、都市型産業を育成して雇用創出を行い、エリア価値を向上させていく家守ビジネスモデルを構築し、まちづくり会社の自立を支援。「現代版家守のエリアファシリティマネジメント活動」は、第6回ファシリティマネジメント大賞特別賞(社会システム部門)受賞。



### 遠藤 謙 (えんどうけん) / ソニーコンピュータサイエンス研究所 研究員 / 株式会社 Xiborg 代表取締役

2001年慶應義塾大学機械工学科卒業。

2003年同大学大学院にて修士課程修了。

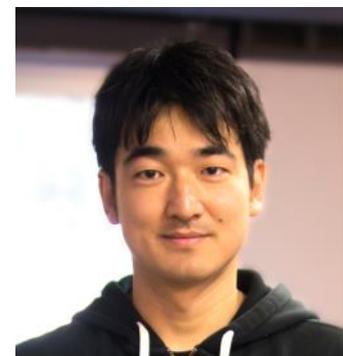
2005年より、マサチューセッツ工科大学メディアラボバイオメカニクス

グループにて博士課程の学生として、人間の身体能力の解析や下腿義足の開発に従事。2012年博士取得。一方、マサチューセッツ工科大学 D-lab にて講師を勤め、途上国向けの義肢装具に関する講義を担当。

現在、ソニーコンピュータサイエンス研究所アソシエイトリサーチャー。

ロボット技術を用いた身体能力の拡張に関する研究に携わる。

また、途上国向けの義肢装具の開発、普及を目的とした D-Leg の代表、途上国向けものづくりビジネスのワークショップやコンテストを主催する See-D の代表も務める。2014年には、競技用義足開発をはじめ、すべての人に動く喜びを与えるための事業として株式会社 Xiborg を起業し、代表取締役に就任。2012年、MIT が出版する科学雑誌 Technology Review が選ぶ 35 才以下のイノベータ 35 人 (TR35) に選出された。また、2014年にはダボス会議ヤンググローバルリーダーズに選出。



### 高桑 早生 (たかくわさき) / パラリンピック陸上選手

小学6年の冬に骨肉腫を発症し、中学1年の6月に左足ヒザ下を切断した。中学時代はソフトテニス部に所属。東京成徳大深谷高校では陸上部に入り、2年時には初の国際大会、アジアパラユースに出場。

100メートル、走り幅跳びで金メダルを獲得した。

2010年のアジアパラリンピックでは、100メートルで銀メダル、走り幅跳びで5位入賞した。

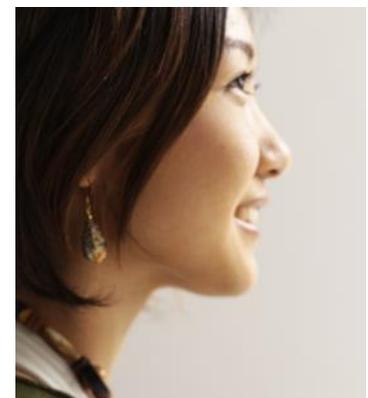
2011年4月からは慶應義塾大学体育会競走部に所属。

9月のジャパンパラリンピックでは、100メートルで初の13秒台となる13秒96をマーク。また、2014年6月8日の日本選手権では、100メートルで13秒86をマークし、日本記録に0.02秒に迫った。



### 栗栖 良依 (くりすよしえ) / クリエイティブディレクター

美術・演劇・イベント・製造と横断的に各業界を渡り歩いた後、イタリアのドムスカデミーにてビジネスデザイン修士取得。その後、東京とミラノを拠点に世界各国を旅しながら、様々な業種の専門家や企業と、対話による新しい価値の創造に取り組む。2010年3月、右脚に悪性線維性組織球腫を発病し休業。2011年4月、右脚に障害を抱えつつ新たな人生をスタート。横浜ランデヴープロジェクトのディレクターに就任し、スローレーベルを立ち上げる。現在は、スローレーベルのディレクターとしてプロジェクト全般の企画開発と推進を担っている。



### 曾谷 朝絵 (そやあさえ) / アーティスト

絵画やインスタレーション、映像とジャンルに捉われず活躍するアーティスト。2006年東京藝術大学大学院博士後期課程美術研究科にて博士号取得。『第6回昭和シェル石油現代美術賞展』グランプリ(2001)、『VOCA展2002』VOCA賞(グランプリ)をはじめ、『横浜文化賞文化・芸術奨励賞』、『神奈川文化賞・未来賞』(2013)など多数受賞。2013年には、大規模な個展『宙色(そらいろ)』を水戸美術館にて開催し、大好評を博す。ほか、全国の美術館やギャラリーで展覧会を開催。現在、文化庁新進芸術家海外留学制度研修員としてNYにて制作活動を行っている。光と色彩に満ちあふれた作品はダイナミックで現代的な感性を持ち、観る者の視覚を越えて身体感覚を呼び起こす。



Photo: Kasagi Yasuyuki

---

#### 【本件に関するお問合せ先】

TOYOSU 会議 広報事務局(株式会社サニーサイドアップ内)

担当: 齊木悠也(080-3708-7837)、金瑞瑛(きむそよん/080-4794-0675)、小久保

TEL.03-6894-3200 FAX.03-5413-3050 Mail: saiki@ssu.co.jp